

多摩デポ通信 第25号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2013年1月20日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三二・一八

●HP / <http://www.tamadepo.org/>

●E-Mail depo_tama@yahoo.co.jp

共同保存の原点を！

―年頭にあたって

理事長 座間直壯

多摩デポは今年で六年目を迎えますが、新年を前に昨年11月に開催した、第15回多摩デポ講座「八王子市図書館の英断『地域資料は残った！』見学会に触れておきたいと思います。

平成22年3月に、都立図書館が廃棄を予定した「多摩地域資料」約二万四千六百冊を、貴重な資料群の散逸を防ぐため一括して八王子市図書館が引き取って

ただいたのです。都立図書館から届いた段ボール箱は何と、650箱もあつたという事です。これらの資料を収容するため、閉架書庫にそれまであった所蔵資料の一部を外部書庫に移転させ、書庫にそのスペースを確保したのです。

公開するにあたっては、限られた展示・保管スペースを効率的に活用するため複本は一タイトル一冊のみとする整理が行なわれ、受入れ総冊数は約一万七千冊になったといえます。

図書館の仕事を経験された方なら容易に想像がつくと思いますが、毎日の多忙

第16回多摩デポ講座

映画「40万冊の図書」の監督に聞く

～疎開させ空襲から本を守った事跡を追う～

空襲被災を予想し、都立日比谷図書館から多西村（現あきる野市）や志木市に蔵書疎開が行なわれました。さらに学者・民間人所有の古典籍・貴重文献を都費で買い上げ避難させる事業が始まります。40万冊と云われる図書が、こうして45年3月の大空襲や5月の日比谷炎上の前に救われたのです。困難の多い戦時下に、大量の本を後世に残した前代未聞の大事業でした。

映画は大八車やリュックで本を運んだ元都立1中生の証言や、あきる野市に現存する土蔵や関係者を発掘します。監督の想いと見たことから学びましょう。

2月16日（土）午後2時～4時30分

講師：金高謙二氏（映画監督）

会場：八王子クリエイトホール 11階視聴覚室

（JR八王子駅北口4分・八王子市生涯学習センター図書館の入る建物）

八王子市東町5-6 TEL：042-648-2231

参加費：500円

NPO会員でなくても、どなたでも参加できます

な仕事を抱えながらの作業は容易ではなかったと思います。大変な作業を八王子市図書館の館長はじめ全職員の総力を挙げて取り組んでいただいことに心より敬意を表し感謝を申し上げます。

見学会には、多摩デポ会員以外の方も多数ご参加され、担当された中村照雄さん（現八王子市生涯学習センター図書館長）にご講演いただき、その後資料が保管されている書庫の見学もさせていただきました。



8月の公開後、この多摩地域の一括資料を毎月百人程度の方が調べ物のために利用されているということでした。以前、都立多摩図書館には各自自治体や住民から、多摩地域の資料を横断的に閲覧してもらうために寄贈・受入したのも少なくなかったはずで、そうして構築された貴重な資料群が改めて多摩の中心都市である八王子の図書館に保管されたことは本当に意味あることだと思っています。今後はこれらの資料を更に有効活用できる方法や、それ以降の資料の継続に、多摩地域の図書館全体として具体的な協力支援体制なども考えていく必要があると思います。

私たち多摩デポは、多摩地域に、利用できる図書タイトルを一冊でも多く所蔵し、求める人にいつでも提供できるように資料保存・

提供体制の整備・構築を目指して活動をすすめていきます。一年が始まりましたが、改めて原点を確認しながら共同保存について考えていきたいと思っています。皆さんのご支援・ご協力をよろしくお願いします。



多摩地域資料

公開までの道のり

八王子市中央図書館

一杉 昇子

平成22年3月24日、都立図書館からダンボール約650個（トラック4台分）が、搬入された。都立図書館再活用資料の多摩地域資料2万4千点である。

八王子市中央図書館では、受入れた資料を2階閉架書庫に入れる予定であったが、段ボール箱は、配架予定書架通路だけでは置ききれず、1階・3階・地下の書庫のすきまも使い運び入れた。

足の踏み場もない狭い書庫での作業、職員が平常業務の合間をぬって、複本を抜きつつ（配架スペースが限られていたため）、分類番号順に配架を行ったが、作業は難航。

また、都立から提供して

もらう予定だった書誌データが、八王子市図書館のシステムに取り込めなかった。幸いにも、国の緊急雇用対策補助金を活用し、平成²³年度に残りの配架作業とリストとの照合、バーコード添付、書誌データの作成、資料へのデータ付与など公開に向けた作業を行うことができた。

分類番号は、八王子の郷土資料分類ではなく、都立の行政郷土分類表をそのまま利用。分類ラベルもそのまま活かすこととした。理由は、これまで所蔵していた郷土資料と配架場所も含め違いをはっきりさせること、都立の分類が細かく分けられていること、また何より省力化の理由も大きかった。

節電に取組むため、通年夜間開館を行っている八王子市でも、週一回輪番で休館日を設けたことから、作

業日程など苦慮した点多かったが、無事に作業終了。すでに所蔵があった資料と書誌割れ、内容登録の突合など、データ整備の細かい修正作業は今も続いているが、複本を除く、約1万7千点が検索できるようになり閲覧に供せるようになった。

平成²⁴年8月15日の公開に向けてのPR活動を実施するとともに、資料の多くが2階閉架書庫にあるため、開架の参考室の一部に多摩地域資料コーナーを設け、目をひく資料と目録、説明ボードを展示。そこで、資料の存在を知ってもらい利用に繋がるようにした。

定期的なPR活動の必要性、貴重な資料の保存と利用のあり方、8千点の複本をどのように活用していくかなど、いくつかの課題は残っているが、たまたま利用者が探していた資料が、

多摩地域資料群のみにあつた時、市外から利用に訪れてくれた時など、多摩地域資料を受け入れて本当に良かったと感じている。

戦前発行のものなど（約60点）、きわめて貴重なものを除いて、他市町村への相互貸借貸出を行ってまいるので、多摩地域全体の蔵書として活用してもらえたらと思います。

多摩デポ講座参加感想

町田市立中央図書館

河津沙也加

八王子市中央図書館にて開催された「講座」に参加させていただきました。

西八王子駅を降りてまず目を引かれたのが、中央図書館前の甲州街道を彩る素晴らしいいちよう並木で、講座の最初にも翌日から始まる「いちよう祭り」のこ

案内がありました。

講座本編は、まず都立中央図書館から移管された多摩地域資料を八王子市で受け入れた経緯のお話から始まり、資料を収めている書庫（一部開架）の見学、質疑応答と続きました。経緯については、都立図書館の資料を受け入れるにあたり元々中央図書館の書庫にあった約1万7千冊を外書庫に移したり、資料の整理やデータ作成などは委託し、分類番号は都立図書館のものを使用するなど大変な苦労や工夫が伝わってきたと同時に頭の下がる思いでいっぱいでした。

書庫の様子は圧巻でした。壁一面、床から天井までびっしりと地域ごと・各市毎に資料が並べられ、実際に手にとっても見せていただきました。館内閲覧ですが借用も可能とのことなので、八王子市の方のみならずよ

り多くの方に活用していた
だければ…と思いました。
貴重なお話と書庫見学の
余韻に浸りつつ、夕闇のい
ちよう並木を後にしました。
八王子市図書館の皆様、多
摩デポの皆様、ありがとうございます。

多摩デポ講座に参加して

調布市立図書館
渋沢三栄子

私事で恐縮ですが、八王子市中央図書館は私が生まれ育った実家の近くにあり、勝手に親近感を抱いていました。今回の講座は、八王子市図書館を知るいい機会になりそうだったので、参加してみました。

生涯学習センター図書館の中村館長のお話は、とても丁寧で、お人柄がにじみ出ていました。

なんととっても、2万4



千冊もの本を引き取った坂倉前館長の英断がすばらしいと感じました。そして、それが実現できたのは職員たちの力があってこそです。2万4千冊の本は、段ボール箱にすると、なんと約650箱だそうです！それを、運び込み、仕分けし、本棚に並べるまで、どれほどの手間と労力がかかったことでしょうか。

2万4千冊のうち複本を

除いた1万7千冊余の本を図書館に置いたため、その分の蔵書を廃校になった小学校に移してスペースを作ったそうです。自館の蔵書を館外へ移動し、東京多摩地域全体の資料を館内に置いてくださっていることにとっても感動しました。

それらの資料は、各自治体で欲しいものだけ引き取る案もあったそうですが、「まとめて置いておくことに意味がある」を貫きとおされたこともすばらしい決断だったと思います。平均すると、一ヶ月に百人ほどの利用があるそうです。まとめて置いてあることが、利用につながっているのでしょう。

資料はWEBで検索でき、館外貸出しはできませんが、各自治体の図書館には協力貸出しが可能です。

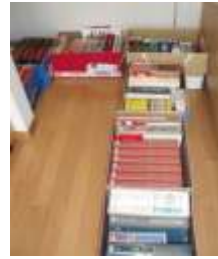
書庫も含めて館内を見せていただきましたが、一部



は参考資料室に、多くは書庫に配架されていきました。今では入手できない貴重な本もありました。書庫の中は自治体別に並べられていました。自治体によって冊数にかなりの差がありました。極端に少ない自治体もあり、きちんと納本していくことの大切さを感じました。

中村館長はじめ、案内してくださった職員の方々、ありがとうございます。

デポ事務所も訳あって 図書館資料の里親探し



いま、多摩デポの事務所の床にはダンボール箱が並んでいます。中身は参考図書と個人文学全集、合わせて360冊ほど。そのほとんどが開かれた形跡が無いと言っている。状態良好な本です。「多摩地域の図書館は結構所蔵しているな」と思う本ではあるのですけれど。実はこれらは主に某市立図書館と某大学図書館から託されたものです。多摩デポは「共同保存図書館」と名乗りながらも、まだ図書館としての施設を持っていません。ですから、いままで「図書館資料の里

親探し事業」でも、多摩デポはあくまでも本の仲介をするだけ。本をお預かりするのは、交渉成立後に運搬をするわずかな時間だけでした。

今回あえて事務所の部屋にこれらを引き取ることにしたのは、置き切れず手放す館から「この内容でこの状態の本なので、東日本大地震で蔵書を失った図書館の蔵書の再構成に使えるものなら」そして「でも、条件なしで全ておまかせしますから」と依頼があったからです。

実を言うと、この手の本は被災地図書館での活用は非常に難しいのです。たとえお受けしても活用はお約束できません。

被災地の図書館では本が足りなくて困っているだろうと思われる方が多いのですが、必ずしもそうではありません。

震災では、非常に広い地域の図書館で書架から図書が落下、破損もありました。すでにほぼ修理され、元に復しています。一方、津波で建物が全壊し資料が流出した図書館では、今は仮設の小さいスペースで運営を行っています。また、町づくりの計画がたたず、図書館施設の再建も決まりません。福島県原発事故による避難自治体の図書館は、警戒区域で立入できず休館していたり、避難解除が行われても住民がなかなか戻らず、図書館活動が困難であったりという状況が続いています。これらの図書館では、図書を置ける場所や、図書整理をする人員の確保が非常に難しい状態です。

一方、震災直後から被災地へは大変多くの本が送られ（しかもニーズに合わなかった本も多く含まれ）、い

まだに整理ができず段ボール箱に詰められたままの状態とも聞きます。

それに今回蔵書が大打撃を受けた図書館は、もともと小規模な自治体の蔵書数一〇万に満たない図書館でした。本格復興が成った時も、おそらく多摩地域の蔵書数五〇万や一〇〇万という図書館と同じ規模で蔵書構成をして本を持つわけではないと思われるのです。

けれども、この一見して廃棄されるのはあまりに惜しい本たち。今回だけ、限りある事務所の床をしばらく提供することになりました。まずは被災地に限定せず、これまでどおり多摩地域内で里親を募集します。その後残ったものがあれば、また次の手を考えましょう。

函入りの手応えのある本と格闘して検品、そして書誌事項の確認、リスト作成をすませました。



多摩地域の各図書館の皆様、美本です！これからお声をかけますので、是非ぜひ受入れのご検討を。どうぞよろしくお願いします。（事務局）

投稿 「本を守る」映画を 見てきました

会員 堀 度

「40万冊の図書 戦時中“本”を守った人たちがいた。」というドキュメンタリー映画の完成特別上映会が行なわれた。会場は史実の舞台となった日比谷図書館

（現在の建物は昭和33年建築）。千代田区に移管され、しばらく改修休館して千代田区立日比谷図書館文化館の名称でオープンしたばかりである。私は12月15日にこの映画を見てきた。

太平洋戦争末期、空襲による焼失を免れるため、日比谷図書館では大八車等で蔵書を多摩まで疎開させていた、という話はなんとなく知っていた。この映画は、そのエピソードを追い、旧多西村（現あきる野市）に土蔵を探し、当時を知る人を訪ねる。駅周辺はすっかり様変わり西多摩だが、70年後の今も幾つかの土蔵は残り、現在の代の方は、土蔵を案内しながら、親からエピソードは聞いて覚えているという。そのことに少し驚く。この地元発掘は映画の手柄だろう。（もうひとつの疎開先、埼玉県志木

市では映像的に追いかけれなかったようだ、既に市街地化したのだろう。）

また、当時この搬送に動員された元旧制都立一中の生徒二人を探して体験を聞いている。八〇代半ばになつていた。元氣そうに屈託なく話されていたが、一人は撮影後他界されたという。この証言も貴重である。

そして現在は都立中央図書館の特別文庫室に保管されている、疎開により残された「慶長江戸図」や「武鑑」等の「東京誌料」の紹介映像も興味深かった。恐れた通り、日比谷図書館は昭和20年5月25日の空襲で、建物と共に約20万冊の蔵書はすべて焼失してしまい、疎開したからこそ、戦後に残ったのだから。

では疎開した40万冊はどんな図書だったのだろう。実はもとの蔵書は「東

京誌料」等約3万6千冊の古典籍であり、それは昭和18年頃から選別され、19年9月には搬出を終えている。大半は、もともとの図書館蔵書ではないのだ。

同年7月新たに日比谷図書館長になった中田邦造が、空襲の激化のもと、在京の学者・研究者の自宅にある文献類の焼失を恐れ、東京都の予算で購入し、疎開させてしまおうという計画を思い立ち、実行した。その40万冊なのだ。当然賞賛されるべき行為だが、非常時とはいえ、普通の「館を守り蔵書を守る」という図書館員の職業倫理や情熱を越えている。

本土決戦に備えた首都防衛の重要施策として、都民を大規模に疎開させる勧誘費用に、都防衛局は多額の家財買収費を予算化していた。家財を残しての疎開を渋る都民への勧誘策だった

が、計画通りの支出に大規模住民疎開は進んでいなかった。中田館長のもと、秋

岡悟郎、加藤宗厚といった幹部職員が支出の滞っていた他局予算に目を付ける。

これを使って民間図書を買上げ疎開させ、戦禍から救おう、というのだ。家財買収費を書籍買収に充てられないか内規を研究し、防衛局と折衝し、約230万円の巨費を動かした。

古典籍商の反町茂雄などを評価委員に据え、自ら反町氏と学者、古典籍所有者の家を訪ねたという。図書館蔵書を守ったというより、民間文献を公費を流用して〈図書館の仕事〉として疎開させ守った男、中田邦造の特異性。そのへんが映画の中で、立体的に浮き彫りにされていると、言い難い。戦後、中田は図書館界から離れて（離されて？）いく。自分の知識は充分でないが、

平時の図書館界には据わりが悪かった人ではないか。

Ⅱ

何を知っていたのか？ 家を探すと、昭和59年4月23日の「大八車で疎開した戦時特別図書23万冊―都立中央図書館 和洋の逸品ぞろい 特別書庫で利用者待つ」という朝日新聞読書欄の切抜きが出てきた。反町氏のコメントもある。本では佐藤政孝の「東京の近代図書館史」（新風舎1998年刊）が、丁寧に事実を拾って読みごたえがあった。

戦前の多摩はどうか。「多摩デポ」見学会で行った、八王子市図書館は明治44年に自由民権運動の壮士の文庫をもとに町立図書館として開館した。昭和20年5月の空襲で焼失しているが、戦前には多摩では唯一の公立図書館だったという。また同20年4月には武蔵野町（現武蔵野市）に、都

立四谷と下谷図書館から、図書館開設のため約2600冊が引き渡された。これは空襲で焼け残った都心部の図書館蔵書を多摩に移し、町村部に図書館を設置しよう、空襲から蔵書を守ろう、という、中田館長発案による都の呼びかけに武蔵野町が応じた結果である。実際には終戦がはさまれ、武蔵野町立図書館が開館したのは同21年7月であった。

Ⅲ

90分の映画の後半三分の一は最近の話題。3万冊の蔵書を家に持ち帰り戦火から守ったバスの図書館員。図書館のない福島県飯館村で全国に呼びかけ寄贈で出来た図書館、そしてその後、原発事故での全村民避難による困難。誰もが認める緊急の話題を追いかけ、テーマは拡散したようにも思う。監督は何を描きたかったのだろうか？

「第14回図書館総合展・学術オーブンサミット 2012」報告

昨年11月20日（火）〜22日（木）、パシフィコ横浜にて「第14回図書館総合展・学術オーブンサミット2012」が行われた。

私は、20日の「国立国会図書館の新たな挑戦―デジタル情報時代における課題の解決に向けて―」と題した国会図書館の新館長大滝則忠氏の講演を聴いた。内容は、国立国会図書館の基本機能を始めとして、昨年作成された『私たちの使命・目標 2012―2016』の話が中心で、この中の6つの目標についての説明。

目標2に「資料・保存」があり「納本制度を拡充させて、国内出版物の網羅的収集に務めるとともに、（…中略）様々な資料・情報を文

化的資産として収集・保存
します。」という説明がある
が、私たちの考える資料保
存とは少し違う感じがした。
資料のデジタル化に関する
ことがメインになっていて、
現物保存があまり考えられ
ていないように思った。

学術オープンサミット2
012(ポスターセッション)
は、例年より多くの団体が
出展していた。「多摩デ
ポ」も出展したが、多くの
人が立ち止まってご覧にな
り、こちらは経過説明をし
た。ブックレットを買って
くれる方はいつもより多い
感じがした。公共図書館関
係者だけでなく、学校図
書館・大学図書館そして学
生等も興味を持ってパネル
を見て、話を聞かれること
もあり、私たちの活動がア
ピール出来る場として、ポ
スターセッションはとても
良いと思った。

(事務局 加藤)

多摩の情報提供

◎西東京市連続講演会
“東日本大震災被災地は、
いま..”

第2回「被災地幼稚園で
水戸黄門を歌う園児」

図書館への支援活動を行
うため継続的に被災地を
訪れている講師から現地
の状況や体験を聞きます。
1月26日(土)
午後2時～4時

会場

保谷駅前公民館

定員

50人(先着順)

講師

矢崎省三さん

東京学芸大学非常勤講師

日本図書館協会東日本大
震災対策委員会委員

申込み

開館時間内

保谷駅前図書館(1104

2-421-3060)

◎平成24年度 東京都多
摩地域公立図書館大会

『被災地の図書館に復興
の光は―復旧から復興へ』

2月5日(火) 6日(水)
7日(木)の3日間

会場

国分寺市立いずみホール
(西国分寺駅南口3分)

主催

東京都市町村立図書館長協
議会

市民も無料で参加できる

★詳細は別紙とします

同封の別紙参照

◎小平図書館友の会

第15回チャリティ古本市

3月30日(土)～31日(日)

会場

小平市中央公民館

ギャラリー

午前10時～午後5時

(最終日は、午後3時まで)

★会の現勢

13年1月1日現在

●会員

(個人会員105名)

(団体会員3団体)

●賛助会員

(個人43名)

(団体2団体)

今年度も最終四半期に入
りました。会費納入がまだの
方には振込票を同封しまし
た。入金を、どうぞよろしく
お願いいたします。

●年会費

正会員(個人・団体)

五千元

賛助会員一口 二千元

(個人一口 団体五口以上)